

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

漱石文庫の整理にたずさわって（1）

蔵書中の挿入物について

情報サービス課閲覧第二掛長 湯 本 智 子

漱石文庫の蔵書余白への書き込みは、岩波書店「漱石全集」に翻刻され一般に知られるところである。しかし、約3,000冊の蔵書の中に挿入されていたさまざまな物は、これまで紹介される機会をもたず、静かに現状維持され続けてきた。おそらく、何年も前よりこれらの挿入物は漱石の門下生、岩波書店の編集者、漱石研究者等によって確認されていたのであろうが漱石の足跡を正確に留めようとする暗黙のルールにより、脈々と今日に受け継がれてきた。そのことは本の中に挿入されていた「これは〇〇より発見したものである。」「この頁からとるな。」「コノ紙片ハ、旧全集編纂当時ハ見返シニ挿入シアリタルモノナリ・昭十二・十二」と書かれた紙片等からも伺い知ることが出来る。

このたび昨年より始った漱石文庫マイクロフィルム化の作業の為に、全蔵書の全頁を点検する機会に恵まれ約120点の挿入物をリストアップすることが出来た。それらは漱石自身が走り書きした貴重なものから、資料とは云い難たい物、漱石が挿入したと必ずしも断定することが出来ないような物までさまざまであるが、整理者としてなによりも重要なことは、蔵書に挿入されていた状態を正確に記録し、保管することであろう。挿入物自体は、それ程新鮮な印象を与える内容ではないかもしれないが、漱石の没後80年間彼の蔵書中に存在し続けたさまざまな資料を整理者の立場から紹介したい。

刻されている。これらの断片は、蔵書の余白に書き込みをした時、余白部分の不足の為に別の紙片に続きを書いたものである。当時の全集編纂時には蔵書中より発見されて、翻刻されている挿入断片が残念なことに現在は存在しないものもある。他の16枚はまさに葉代わりの断片、ノモのある紙片と称するにふさわしいような形態のものではあるが、自筆で、しかも意図的に挿入されたという点で、研究上重要な資料であることはいうまでもない。

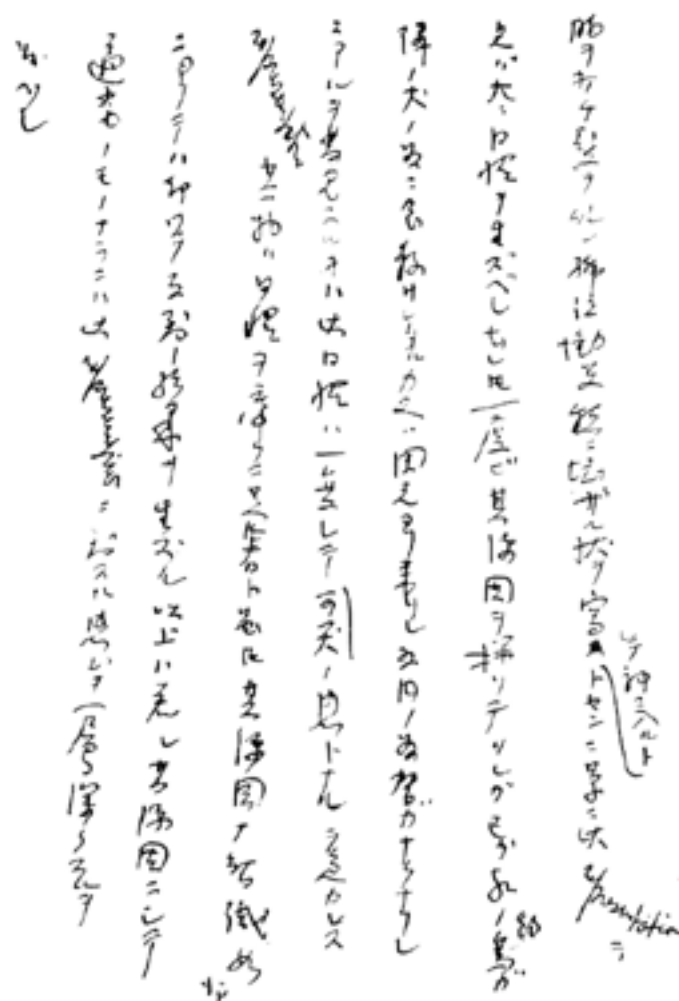


図1) 漱石文庫No.734「Lessing, G.F., The Laokoon and other prose writings of Lessings.」の22頁に挿入されていた断片（胸ヲ打ち髪ヲ乱シ号泣慟哭愁ニ堪ザル状ヲ寫シテ神ニ入ルト…）

漱石自筆の断片、紙片類 21枚

自筆の断片、紙片類のうち5枚が「挿入しありし紙片に」として岩波書店「漱石全集」に翻



図2) 漱石文庫 No. 905「Ueberweg, F., A History of Philosophy, from Thales to the present time, vol.1」の200頁に挿入されていた断片

名刺類 5枚

当時の名刺は名前のみが印刷されており住所は漱石自身がメモをするか名刺の本人が加筆している。栞の代わりに何気なくはさんだのか、読書中の書斎を訪れた人物との歓談後開いてあった頁にはさんでしまったのだろうか、その時の状況を想像すると大変興味深い。

漱石の名刺

Mr. K. Natsumé. 名刺の左下に小さく Japan と印刷されており、裏に「文科大学講師 夏目金之助」とタテにインクで自筆されている。この名刺は、まるで衣服のポケットに入れたまま

洗濯をしてしまい、名刺を干して本の間にはさんでシワをのばそうとしたのではと想像する程汚れている。

弥富演雄の名刺

「麻布今井町四〇 南郷茂光方」と加筆され、名刺の表と裏に赤エンピツでいたづら書きがしてある。漱石全集22巻「書簡」によると、この人物は漱石に貸家の斡旋をしており明治37年6月29日にこの件で漱石宅を訪問している。

二宮行雄の名刺

肩書きに文学士とあり住所はおそらく本人がメモしたのであろうエンピツ書きで「神奈川県中部出澤村下吉沢」とある。漱石が一高と東大英文科の講師を努めていた明治36、7年当時東大英文科に在学していた人物である。裏面に漱石の筆跡で「小日向台1-602」と加筆されているが、明治39年5月19日に漱石は、「二宮君の所へ手紙をやりたいが番地が不分明ゆえ君に伝言を依頼する……」という書簡を東大の学生に出している。

モリス (R. W. Morris) の名刺

名刺には Mr. Ralph Morris と印刷されており、明治38年から40年にかけて一高のアメリカ人教師であるから漱石とは同僚の間柄か。

三好森太郎の名刺

この人物がどういう人物かは不明である。

丸善の納品書 19枚

19枚の丸善の納品書が主に「Studio」という英国留学の時から講読しはじめ1916年まで継続した月刊の美術雑誌に挿入されていた。この雑誌については、「スチュヂオを読む……」「スチュヂオにでも載りそうな……」という記述が日記や作品にみられることから、相当愛読していたことが分かる。これらの19枚は気付ずにそのまま放置されていたのであろう。この中で大変興味深いことは、納品書の宛名はすべて「早稲田南町7・夏目金之助様」となっているが、

唯一通だけ1911年3月4日の日付で胃腸病院宛になっている納品書があったことである。退屈な入院生活を雑誌を読んで紛らわしていた漱石の姿が彷彿とする。明治44年は胃潰瘍で東京の長与胃腸病院に入退院を繰り返し、その後伊豆の修善寺温泉で療養していた時危篤状態となり生死をさまよった様子を記した「修善寺大患日記」は特に知られるところである。

外国の新刊雑誌は出版年月日から納品までにはほぼ正確に2ヶ月を要していること、年号を途中で西暦で記載するが結局大正という記載に戻っていること、タイトルへのゴム印の導入、書籍の値段等、納品書から当時の書店の事情を推察することが多い。

漱石以外の人物が書いたと思われる

断片・手紙類 4点

「文科二年龍南曾費未納者」

和紙に8名の生徒の氏名がリストアップされている。龍南曾とは漱石が1896年から1900年まで教授を務めた熊本の第五高等学校の同窓会の

名称である。五高生徒氏名は英語試験問題にもたびたび記述されており、この未納者リストの中に重複して登場する生徒もいる。

シラーの絵

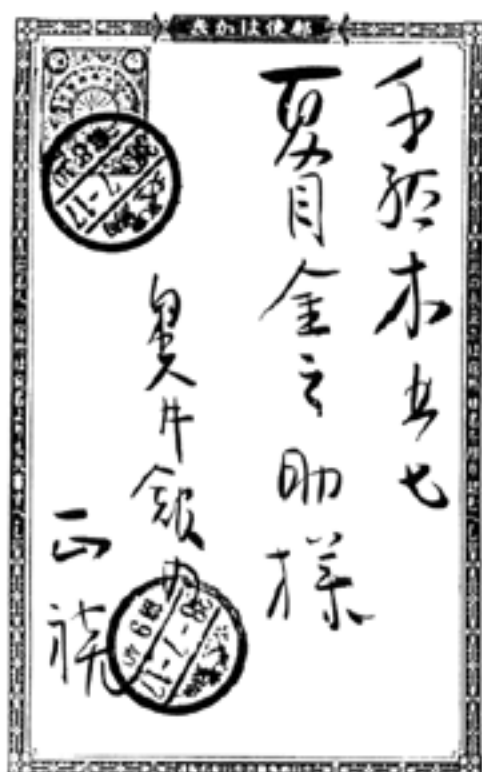
裏に「俺の気分がこんなだったときに買ってきてよろこんでいたのだ。この頃は少し落ちついて恐ろしく此顔が見え初めた……いやだったら直ぐに破ってくれ シルレルの寫しだよ」という文章が書かれている。

皆川正禧からのはがき（明治38年7月17日）

明治36年東大英文学科を卒業後鹿児島島の七高と水戸高校教授を歴任した人物で、はがきには高浜虚子から7円の原稿料をもらって恐縮したこと等が書いてある。彼はまた、漱石の身辺資料である「貸した本」、「金の貸付簿」の中にもその名前が登場しており、「Poemes in Prose from Baudelaire」を漱石山房から借りていることから、親しい関係だったことが分かる。

鳥居赫雄（てるお）からの封書（明治43年1月16日）

彼の母親の死亡通知である。鳥居素川とも称



えり高成よりえ部なる様様とてセ
同様にした大まきいりや下り老
もめせたりこふきり散りは大層よくツ
みてもうとくれ、今日や野天と清くして風
山前へ向かふとすそわたりれや野天は地ろ
ちろねとふくえん、おれははくちろえ
とまき部成とふくえん、おれははくちろえ
おれ、おれと電車がわたりはくちろえ
とふくえん

図3) 漱石文庫 No. 767「Rebelais, F., The Works of Francis Rabelais, vol.2」218頁に挿入されていた皆川正禧からのはがき（明治38年7月17日）

し、大阪朝日新聞社のジャーナリストである。
「廬美人草」に対する感想文

墨書で誰が書いたものかは不明でしかも7、8、9頁の3枚だけで、漱石が保存する時よく使用する茶色の和紙の袋に入っていた。読者から送られたものか、残した3枚のみを漱石は納得したのか、詳細は不明である。墨書で「コレハ不折山人丙辰潑墨（漱石文庫 No. 1394）ノ中ヨリ発見セシモノナリ」という、紙片がついている。おそらく本学に移管される以前に記されたものであろう。

印刷物 14点

明治大学分校の墨書と公印、外国切手、本の表紙「法城を護る人々」の切抜き、故狩野芳崖23回忌遺墨展覧会特別入場券（明治43年）、沓銭五厘の未使用のはがき、二松学舎日課時間表、英字新聞切り抜き、外国の版画、聖書絵のようなカード等が総て洋書に挿入されていた。出版社が案内のために挿入した印刷物と違いこれらは漱石の身边を少なからず想像されるに足る資料といえる。

押し花 15枚

14枚の植物の葉と1枚の花が蔵書に挿入されていた。主に挿入されていた本は、「The language of flowers」（漱石文庫 No. 1115）という彩色で花が描かれている植物図鑑のような本である。小さな花の蕾は当時の色を留めてさえいる。漱石山房より蔵書を借りた人物か、それとも子供達か、誰が挿入したのかは不明だが、樹々の緑の美しさを留めようとする感覚を彼の作品に認められるように思われる。しかし、諸國翁墳記（漱石文庫 No. 1156）に挿入されていた銀杏の葉6枚は他の人物が挿入したものと思われる。銀杏の葉には俳句（葉が黒くなって解説困難）と裏に「二十六年十一月熊本 鉄ノ身先（すきのみがさき）湯の前」と墨で書か

れてあった。挿入されていた「諸國翁墳記」は諸国を行脚した芭蕉の墓碑について書かれたものである。明治26年は芭蕉の200回忌が催されており、俳句・熊本・漱石という点と線から、漱石がこの書を手に入れるまでの経緯についてさまざまな推理が生じて、興味深い。

新聞紙

全蔵書のほぼ一冊一冊に、小さく刻まれた唐辛子が新聞紙に包まれて挿入されていた。2包の新聞紙の断片が昭和9年8月19日と昭和11日8月8日であったことから、漱石の没後これらの包みは防虫の為に挿入されたものであることが容易に理解出来る。その作業は、赤い唐辛子の実る夏の盛りに、しかも数年に渡って行われたのではないかという想像が働く。1冊毎に正確に折たたまれた唐辛子を入れた小さな新聞の包を見るとその苦勞を感じずにはいられない。しかし、約70年間本の間に入っていた為、新聞のインクは蔵書の頁に包みの痕を残してしまった。

前述の新聞紙を除いて、蔵書に挿入されていた資料はすべて挿入蔵書名、挿入頁を記録し保存の観点より他の自筆資料、身边資料と共に別置することとした。

挿入物の整理を通して感じることは、多くの研究者や閲覧者がこれらの挿入物を発見し目に触れ、手に触れたであろうが、冷静に有のままの状態に維持してきたということである。この事実を厳粛に受けとめ、整理者として現状を正確に記録したいと思う。

（ゆもと・ともこ）

注）漱石文庫の資料の整理については、文学部英文学小沢博助教授と国文学佐藤伸宏助教授の指導の下に行い、くずし字の解説は調査研究室の大原助手の協力の下に行った。又、解説等の一部を、岩波書店編集部から協力を頂いた。人物については、「漱石全集」第22巻書簡の人名索引を参考にした。

平成7年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部省配分）によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用下さい。

番号	資 料 名	内 容	出版形態
1	近代日本青年教育叢書（全100巻）	働く青年というふたつの青年期をめぐる諸論を教育の相のもとに広くとらえ、青年期教育に関する基本的な統計・史料を収録した。	図 書
2	American Board of Commissioners for Foreign Missions. Annual Report. (アメリカン・ボード海外宣教年次報告)	19世紀以来の各国における政治社会・宗教や社会生活の状況等、多岐におよぶ。	マイクロ フィッシュ
3	Revue de l'Occident Musulman et de la Mediterranee. とその後続雑誌 Revue du Monde Musulman et de la Mediterance. (『西方イスラムと地中海世界雑誌』『イスラム世界と地中海雑誌』)	西方イスラム世界と地中海世界に関する専門雑誌。	図 書
4	日本近代都市社会調査資料集成（1）東京市社会局調査報告書1920-1939年	大正から昭和初期にかけて東京市が行った各種の社会調査報告書の資料集であり、都市社会の構造を多角的・網羅的に示す資料・データ群。	図 書
5	Justice and Authority in England, c. 1540-c.1800: County Quarter Sessions and Related Records. Part 3; Quarter Sessions Files, 1603 (Trinity) - 1616 (Michaelmas). (近世英国チェンバース四季裁判所記録文書集)	英米法特有の素人裁判官治安判事による裁判・行政の記録集。	マイクロ フィルム
6	Family Process. (家族過程研究)	家族療法について理論と技法に関する今日の隆盛をリードした雑誌。	図 書
7	Records, Drafts and Reports to the Reform of the Rules of Criminal Procedure in Germany. (ドイツ刑事訴訟規則の改革についての法制史料・法典草案・議事録)	第一次世界大戦以前（1903-1911）のドイツにおける刑事訴訟法改革についての記録集。	図 書
8	Philosopher's Index (哲学文献)	哲学および関連領域の本・雑誌からの書誌索引と抄録。	CD-ROM
9	新芭蕉講座	芭蕉の代表的作品・資料を収録、評注を施す。	図 書
10	Sri Garib Das Oriental Series. (ガリブ・ダス東洋叢書)	インド哲学・インド文化研究資料。	図 書

番号	資 料 名	内 容	出版形態
11	宋蜀刻本唐人集叢刊	宋代四川地区刊刻の唐人別集の影印。	図 書
12	Early English Books., STCZ II: Unit 92. 93. (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古にいたる期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロフィルム
13	Biography and Genealogy Master Index. 1981-1995. (世界人名・系譜総合索引)	世界の古今の350名以上の人名辞典を元に320万項目をおさめた総合人物索引。	図 書
14	I.B.Z vol.28(1992), vol.29(1993) (国際学術雑誌記事索引)	約700タイトルの逐次刊行物を収録対象とした世界的規模の総合的雑誌記事索引。	図 書
15	Freud, Gesammelte Werke.(フロイト『全集』)	精神分析学者G. フロイトの全集。	図 書

第27回国立大学図書館東北地区協議会総会

標記会議が4月24日～25日の2日間、福島大学を会場として東北地区7大学より27名が参加して開催された。

協議に先立ち、福島大学渡辺館長の挨拶があり、続いて慣例により会場館の渡辺館長が議長に選出された。

出席者の自己紹介の後、渡辺館長から、国立大学図書館協議会等の活動状況については、先に議事要録等が各大学に配布されているので、改めて報告は行わず、質問があればお受けすることにした旨述べられ、了承された。

次いで、第43回国立大学図書館協議会総会に提出する議題、要望事項等について次のとおり決定した。

1. 文部省大臣等に対して特に要望すべき事項
 - (1) 学術図書・雑誌・電子情報資料等購入費の増額について
 - (2) コンピュータ、高速ファクシミリ及び関連装置等の高度化について
 - (3) 図書館施設の整備充実について

- (4) 有能な図書館職員の確保及び処遇改善について

なお、(4)に関連して、各種電子媒体についての知識、国際情報ネットワークや主要データベースの構成、利用方法などに通じた若く有能な職員の確保と同時に迅速・的確な図書業務(収集・整理)を行い得る若く有能な職員の確保についても、要望書の中に取り入れていただきたい。

2. 総会の分科会で検討するための協議題

(1) 第2分科会

ILL(現物貸借)におけるサービスの改善・向上について

おって、平成8年度理事候補館及び所属部会並びに地区連絡館がそれぞれ次のとおり選出された。

理事候補館

岩手大学附属図書館(第1部会)

東北大学附属図書館(第2部会)

地区連絡館

東北大学附属図書館

附属図書館商議会商議員名簿

平成8年4月1日現在

所 属	氏 名	任 期	電 話 番 号
図 書 館 長	小 山 貞 夫	官 職 指 定 (6.12. 1～ 9.11.30)	(6 2 1 0)
医 学 分 館 長	高 坂 知 節	官 職 指 定 (7.12. 1～ 9.11.30)	18 (7 3 0 1)
北 青 葉 山 分 館 長	加 藤 順 二	官 職 指 定 (8. 4. 1～10. 3.31)	(6 3 8 2)
工 学 分 館 長	福 田 正	官 職 指 定 (8. 4. 1～10. 3.31)	(7 5 0 3)
農 学 分 館 長	酒 井 惇 一	官 職 指 定 (7. 4. 1～ 9. 3.31)	16 (8 6 6 0)
事 務 局 長	伊 藤 公 紘	官 職 指 定 (7.10. 1～)	(4 8 0 1)
文 学 部 教 授	花 登 正 宏	7. 4. 1～ 9. 3.31	(5 9 7 6)
教 育 学 部 教 授	菅 井 邦 明	7. 4. 1～ 9. 3.31	(6 1 4 4)
法 学 部 教 授	青 井 秀 夫	8. 4. 1～10. 3.31	(6 2 0 7)
経 済 学 部 教 授	大 村 泉	8. 4. 1～ 9. 3.31	(6 2 7 6)
理 学 部 教 授	吉 藤 正 明	8. 4. 1～10. 3.31	(6 5 5 8)
医 学 部 教 授	飯 沼 一 宇	8. 4. 1～10. 3.31	18 (2 6 5 5)
歯 学 部 教 授	山 田 正	5. 4. 1～ 9. 3.31	18 (3 1 3 2)
薬 学 部 教 授	小笠原 國 郎	8. 4. 1～10. 3.31	(6 8 4 6)
工 学 部 教 授	野 池 達 也	6. 4. 1～ 9. 3.31	(7 4 6 3)
農 学 部 教 授	伊 藤 敏 敏	7. 4. 1～ 9. 3.31	16 (8 7 1 1)
国際文化研究科教授	森 淑 仁	7. 4. 1～ 9. 3.31	(7 6 0 5)
情報科学研究科教授	輪 田 稔	5. 4. 1～ 9. 3.31	(5 0 6 9)
金属材料研究所教授	福 田 承 生	6. 4. 1～ 9. 3.31	(2 5 4 6)
素材工学研究所教授	水 渡 英 昭	8. 4. 1～10. 3.31	(5 1 5 6)
加齢医学研究所教授	貫 和 敏 博	8. 4. 1～ 9. 3.31	18 (8 5 3 4)
科学計測研究所教授	島 田 寛	8. 4. 1～10. 3.31	(5 3 5 6)
流体科学研究所教授	井 上 督	8. 4. 1～ 9. 3.31	(5 2 5 6)
電気通信研究所教授	山之内 和 彦	8. 4. 1～10. 3.31	(5 5 2 6)
反応化学研究所教授	西 山 諒 行	6. 4. 1～ 9. 3.31	(5 6 2 9)
遺伝生態研究センター教授	亀 谷 壽 昭	8. 4. 1～10. 3.31	(5 6 8 1)
大学教育研究センター教授	蛭 子 栄 昉	5. 4. 1～ 9. 3.31	(7 6 6 8)
言語文化部教授	藤 原 五 雄	8. 4. 1～ 9. 3.31	(7 6 6 1)

人 事 異 動

平成8年6月1日現在

発令年月日	旧 官 職	氏 名	新 官 職	備 考
8. 3. 16	工学分館管理掛長	佐 藤 正 弘	附属図書館情報管理課課長補佐	昇 任
8. 3. 18		飛 井 賢 治	事務補佐員（医学分館運用掛）	新規採用
8. 3. 31	附属図書館事務部長	高 橋 裕 裕		定年退職
"	附属図書館情報サービス課図書館専門員	武 田 光 佳		"
"	附属図書館情報管理課和漢書目録情報掛長	中 島 甫 甫		"
"	附属図書館情報管理課図書館専門員	石 田 義 光		辞 職
"	附属図書館北青葉山分館長	金 子 主 税		併任解除
"	附属図書館工学分館長	中 鉢 憲 賢		"
"	事務補佐員（農学分館図書掛）	門 馬 美 和		辞 職
8. 4. 1		加 藤 順 二	附属図書館北青葉山分館長	併 任
"		福 田 正 正	附属図書館工学分館長	"
"	九州大学附属図書館事務部長	辻 英 雄 雄	附属図書館事務部長	配 置 換
"	附属図書館情報管理課課長補佐	佐 藤 正 弘	豊橋技術科学大学教務部図書課長	昇 任
"	情報管理課受入掛長	五十嵐 行 衛	情報管理課図書館専門員	配 置 換
"	情報サービス課相互利用掛長	菅 野 博 之	情報サービス課図書館専門員	"
"	情報サービス課参考調査掛長	松 井 好 次	情報管理課受入掛長	"
"	電気通信研究所総務課図書掛長	小 松 武 彦	情報管理課和漢書目録情報掛長	"
"	医学分館整理掛長	前 田 裕 子	情報管理課逐次刊行物掛長	"
"	情報管理課逐次刊行物掛長	佐 藤 義 則	情報サービス課参考調査掛長	"
"	工学分館整理・運用掛長	吉 川 和 幸	工学分館管理掛長	"
"	文部事務官情報サービス課閲覧第二掛	米 倉 進 進	情報サービス課相互利用掛長	昇 任
"	文部事務官北青葉山分館整理・運用掛	及 川 恵美子	医学分館整理掛長	"
"	文部事務官情報サービス課閲覧第一掛	大 原 正 一	工学分館整理・運用掛長	"
"	文部事務官（農学分館図書掛）	千 葉 龍 郎	電気通信研究所総務課図書掛長	"
"	文部事務官総務課会計掛主任	森 孝 臣 臣	文部事務官学生部学生課学生第二掛主任	配 置 換
"	文部事務官医学分館総務掛主任	佐 藤 勝 勝	文部事務官医学部附属病院医事課収入掛主任	"
"	文部事務官歯学部業務課材料掛主任	塚 本 俊 郎	文部事務官（医学分館総務掛主任）	"
"	文部事務官医学部附属病院管理課年度掛	村 田 哲 彦	文部事務官（総務課会計掛）	"
"	文部事務官（総務課システム管理掛）	佐 藤 直 人	文部事務官（情報サービス課閲覧第一掛）	"
"	文部事務官（情報管理課洋書目録情報掛）	鈴 木 陽 子	文部事務官（医学分館運用掛）	"
"	文部事務官（情報サービス課閲覧第一掛）	菅 原 透 透	文部事務官（工学分館整理・運用掛）	"
"	文部事務官（情報管理課和漢書目録情報掛）	高 橋 菜奈子	新潟大学附属図書館	転 任
"	文部事務官（工学分館整理・運用掛）	塚 田 弘 子	文部事務官（農学分館図書掛）	配 置 換
"	文部事務官（医学分館運用掛）	近 藤 真澄美	文部事務官（北青葉山分館整理・運用掛）	"
"	宮城教育大学附属図書館運用係	横 山 美 佳	文部事務官（情報サービス課閲覧第二掛）	転 任
"		永 澤 恵 美	文部事務官（総務課システム管理掛）	新規採用
"		三 浦 純 子	文部事務官（情報管理課和漢書目録情報掛）	"
"	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	沼 田 正 子	事務補佐員（情報管理課受入掛）	配 置 換
"	事務補佐員（情報管理課受入掛）	今 泉 みはる	事務補佐員（情報管理課和漢書目録情報掛）	"
"	事務補佐員（情報管理課和漢書目録情報掛）	志 田 千恵子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	"
"	事務補佐員（北青葉山分館整理・運用掛）	及 川 京 子	事務補佐員（北青葉山分館管理掛）	"
"	事務補佐員（北青葉山分館管理掛）	佐 藤 淳 子	事務補佐員（北青葉山分館整理・運用掛）	"
"	事務補佐員（工学分館管理掛）	大 沼 和 子	事務補佐員（工学分館整理・運用掛）	"
"	事務補佐員（工学分館整理・運用掛）	須 田 洋 子	事務補佐員（工学分館管理掛）	"
"		佐 藤 倫 子	事務補佐員（農学分館図書掛）	新規採用

お知らせ

平成8年度総合研修委員きまる

今年度の総合研修委員の選挙が、去る5月16日～17日の両日実施され、下記の5名が選出された。館長より委員の委嘱をうけ、この1年間職員のための研修計画と実施に活躍されることが期待される。

記

柴田 淑子
内ヶ崎 洋一
勝本 加奈子
南館 義孝
佐藤 直人

会 議

◎学 内

8. 3.27 次期システム技術検討小委員会

◎学 外

8. 4.24 国立大学図書館東北地区協議会
4.25 (於：福島大学)
4.25 東北地区大学図書館協議会
第1回幹事会 (於：東北大学)
5.28 国立大学附属図書館事務部課長会議
(於：東京医科歯科大学)
5.29 国立大学図書館協議会賞受賞者選考
委員会 (於：東京大学)
5.29 図書館情報システム特別委員会
(於：東京大学)
5.29 大学図書館公開事業実施委員会
(於：東京大学)
5.29 国立大学図書館協議会常務理事会
(於：東京大学)
5.30 国立大学図書館協議会理事会
(於：東京大学)

編 集 後 記

ここ東北の地仙台でも、今年は例年になく遅くまで雪が舞いましたが、いつの間にか桜の季節も過ぎ、若葉の美しい季節、特に5月末からはすばらしい天気が続いて、本当に青葉山(城)の名に相応しい環境になってきています。附属図書館はその青葉の中に囲まれていて、利用者にとっては、この上ない場所となっていることでしょう。しかし、忘れてならないのは、利用者に対するサービスの向上であると思います。

本館は、平成8年度から、これまで夜間開館を午後8時までとじていましたが、利用者の要望と館員の協力により午後9時まで(試行)延長して開館することになりました。

沢山の方の利用を希望しております。

また、「木這子」も発行以来20年が過ぎ、こ

れからますます充実した広報の役割を担っていかねばとの思いを、ひしひしと感じているところです。読者の皆様のご支援をお願いいたします。

なお、年度初めのお忙しい中、本号のためにご寄稿いただいた皆様、本当にありがとうございます。心からお礼申し上げます。

おって、大方の広報委員が変わりましたのでお知らせします。前委員同様よろしくお願いいたします。(佐藤)

広報委員

門田 泰典 佐藤 正義 三沢 隆一
小松 武彦 南館 義孝 森脇 ちか
今出 朱美 沼田 幸子 藤沢 和子